

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年6月27日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・2歳児「バッタ、セミを見たり、触ったりしてみよう」

<テーマ設定理由>

虫に興味を持っている子どもが増え、普段園庭ではなかなか見つけれない虫を見させてもらえることになったため設定する。

2. 活動スケジュール

室内で捕まえた虫を観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

0歳児クラス担任が捕まえたセミとバッタを箱に入れ、上から観察する。

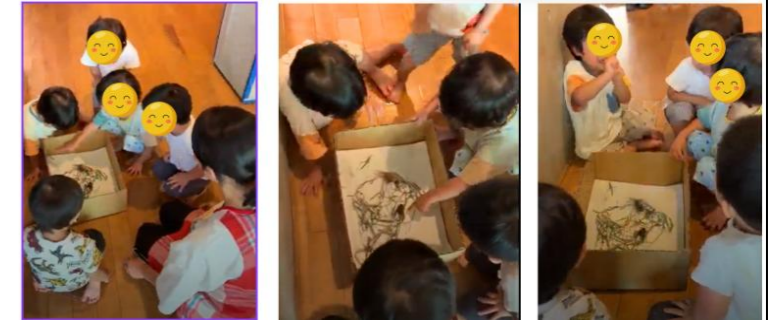
4. 探究活動の実践

<活動内容>

箱の中にあるセミやバッタを見たり、一緒に入っている植物に興味を持ち観察し触ってみようとする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

子A：「こんにちは、バッタ」とバッタに話しかける。
 B：箱の中に手を入れる。バッタを指差す。
 A：バッタを指差し、指先でつまもうとするがバッタが動き手を引く。
 ABC：「こんにちは。バッタ」それぞれ話しかける。
 D：「セミ」とセミに向けて話しかける。
 E：箱の側で見ている。
 ABC：「こんにちは」と言いながらバッタを指差す。
 D：立ったまま見ていたが箱の側に座る。
 Bがセミに触れようとするBの腕を制して払い、「さわっちゃだめだよ」と、触らないようにする。
 A：指先が触れると、歓声をあげた後、保育者に「冷たい」と言う。
 Aは自分に口元にバッタを触った手を当てる。
 D：「セミ」と話しかけている。
 B：バッタを触ろうと指先を出す。バッタが飛び跳ねて指を引っ込める。
 Aと同じく「冷たい」と言う
 C：バッタを触ろうと指先で触れ、触ると勢いよく立ち上がる。
 B：歩いているバッタの様子を見ている。指差し「あ、こっちいく」と言う。
 保育者：こっちにもバッタがいるよ」と言う言葉に反応して、皆バッタを見つめる。
 B：「動いた」と指さして呟く。
 ABD：箱の壁面を上ろうとするバッタを指先で触れて「冷たい」と言う。
 繰り返しみんなで「冷たい」と言う。
 B：バッタ、セミ以外の草、土などを指差し「これなんだ」と言う。
 D：箱の外壁を叩く。
 保育者：Bの疑問に「これは根っこだね」と答える。
 A：保育者の回答に対し「葉っぱじゃん」と言う。
 ABC：次々とバッタに触れ「冷たい」と言う。
 B：セミを人差し指と親指でつまもうとしている。セミが動いて「動いた」と言い、指を離す。
 C：セミをつかもうとして手を出す、急いでひっこめる。
 ABCDE：動くセミを見ている。何度か手を出してつかもうとするもののつかめない。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・親しみを込めて「こんにちは」と話しかけている姿が可愛く、微笑ましかった。
- ・この大きさのバッタを見ることは珍しいので貴重な機会になったと思う。
- ・セミは少し弱っていたから動きが少なく、触ろうとする子どももいたのではないかな。元気な動きをするセミではどうだったのだろうか。
- ・何度も触ろうとしている。指先で少し触れることができた。セミもバッタも手で持って触ることまではできなかったが、触りたいという気持ちはそれぞれ持っていた様子。虫好きの子ども達でも少し怖いという気持ちがあったのか。
- ・子ども達はセミやバッタを見ているだけでも楽しそうだった。動いている様子をじっくり観察出来て楽しかったのではないかな。
- ・「さわっちゃだめだよ」と言う子どもがいた。見るだけでと思っていたのか、触ったらかわいそうと考えたのか。
- ・バッタが跳ぶ姿を見せてあげたい。虫の図鑑や虫のDVDも喜んでみるのではないかな。
- ・「冷たい」と言う言葉はどのように生まれたのだろうか。実際に触った感想なのか、バッタの体の硬質な感触なのか。
- ・人のように温かい、柔らかいという感触との対比なのか、虫の色や形から受ける印象も影響しているのか興味深かった。
- ・もう少し早く探究を続けていたら触れるようになったのかも興味深い。
- ・保育者の誘導的な関わりがなく、子どもの興味に寄り添っていたと思う。

